

対象学年					
幼稚園・保育園	小学校			中学校	一般
年長	低学年	中学年	高学年		

ドラム缶風呂



プログラムの概要

この活動ではドラム缶のセッティング、水くみ、風呂焚き、後片付けにいたるまでの過程をすべて子供たち自身で行います。入浴できるまでの苦労を身をもって体験する中で、昔の人の生活の苦労や現代の生活の便利さを実感したり、安全な道具の使い方を知ったりと学ぶことも多いでしょう。また仲間と協力して活動できるので、団体のつながりや絆を深めることもできます。子どもだけでなく、大人の方も童心に戻って活動できる楽しさもあります。

所要時間：3時間

銀河の里キゴ山

1. 活動のねらい

- ・かまどでの火起こしや薪をくべる作業を通して、火の扱いや性質を学ぶ。
- ・水汲みやドラム缶運びなどの活動を仲間と協力して行うことで、活動グループでの一体感を高め協力の大切さ学ぶ。
- ・風呂の水を汲んで運んだり、水から薪を使って湯を沸かしたりすることで、昔のくらしの苦労を体験することができる。

2. 活動場所

- ・日本海広場野外炊飯場、ピロティ

3. 活動人数・規模

- ・12グループ 60人くらいまで。
※ 屋根がある場所が限られているため、雨天の場合は8グループ程度まで

4. 準備するもの

- ・団体・個人：ペットボトル（1.5～2ℓ）水着、バスタオル、サンダル、着替え、軍手、うちわ
- ・自然の家：ドラム缶、すのこ（丸型、角型）、風呂桶、かまど、マッチ、新聞紙、薪、たわし

5. 活動の手順

（1）事前学習（銀河の里に来る前の学習）

- ・火を扱うときの危険な点について、話し合っておく。

（2）実際の活動

- ・ドラム缶を活動場所まで移動させる。
金属枠とドラム缶に分けて協力して運ぶ。薪や新聞紙、すのこなどの必要なものを併せて準備する。
- ・ペットボトルを使って蛇口から水を汲み、ドラム缶の3分の2まで（それ以上は入れない）水を入れる。全員での共同作業である。
- ・薪に火をつけ、強火でどんどん焚く。定期的に中の水をかき混ぜ様子を見る。
風が強い場合はかまどのまわりをブロックやレンガを使って囲み、空気の量を調整する。
- ・手で触ってみて適温（少し熱め）になったら、かまどの火は消す。できればかまどの中の燃えカスも火バサミなどを使って取り除いてしまおう。（水が溢れた時、燃えカスが濡れて溢れ出しし掃除が大変になる）
そしてドラム缶の中に丸型の「すのこ」を浮かべる。
- ・水着に着替えて、角すのこの上でかけ湯をする。やけどに十分注意しながら金属枠の上へのぼり、お湯が溢れないよう気をつけながら入浴する。ドラム缶には、一度に3,4人入ることができる。（大勢が入ると当然お湯はこぼれてしまう。まわりに着

替えなどを置いて濡らさないよう注意する。)

- ・入浴後は協力して後かたづけをする。たわしと残り湯を使ってドラム缶のまわりのススをこすり洗いする。洗った後はピロティまで協力して運ぶ。

6. 活動のまとめ

- ・安全に活動できたか、協力できたか、火の性質について気付いたことなど話し合う。
- ・昔のお風呂と今のお風呂の違いについて、変化の様子や使用するエネルギーの違いなど興味も持ったことについて調べる。

7. 活動上の留意点

- ・火を扱う危険な作業を伴うので、グループ分けの際には配慮が必要である。
- ・ドラム缶枠の金属部分がかかなり熱くなる。子どもたちへは繰り返しやけど防止のための注意喚起が必要である。
- ・ドラム缶移動の際には、指を挟んだり頭をぶついたりと思わぬ怪我をする場合がある。作業を急がせず、必ず複数で行うようにする。
- ・薪を燃やした際に出る煙は、衣服に強いにおいが残る。また火を扱うので活動にふさわしい服装で活動するように伝える。